

石舞台古墳(奈良県高市郡明日香村)

ここが特別史跡「石舞台古墳」





横穴式石室を持つ方墳/7世紀初めの築造/古墳上部の封土が失われた状態で、玄室部の天井石と側壁の上方が露出している

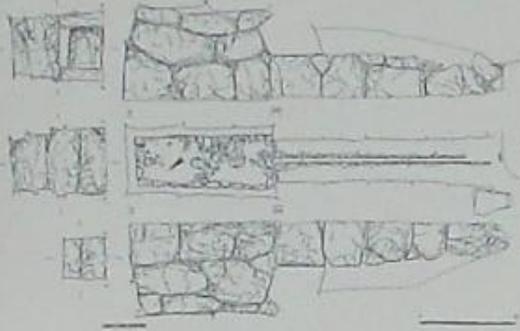
特別史跡 石舞台古墳

明日香村大字島庄
昭和二十七年三月二十七日指定

石舞台古墳は早くから石室を覆っていた盛土が失われ、巨大な天井石が露出していたことから石舞台の名前で親しまれている。昭和八(一九三三)年から実施された調査では墳丘は一辺約55メートルの方墳又は上円下方墳で、周囲には周濠と外堤が巡らされており、墳丘と外堤の斜面には貼石が施されていることが明らかとなった。埋葬施設については南に開口する両袖式の横穴式石室で玄室長は約7.8メートル、幅約3.4メートル、羨道長は約11.5メートル、幅約2.2メートルあり、玄室から羨道にかけて排水溝が設けられている。石室内からは凝灰岩片が出土していることから家形石棺が安置されていたものと推定される。

平成十九年三月

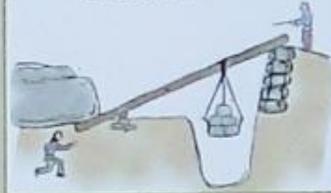
明日香村



石舞台古墳石室実測図

石舞台古墳は、こうしてつくられたと考えられています。

1 右側の土のうを順に外し、重りとバランズをとってだんだん巨石を浮かす。



2 てこ、ころ、ろくろ、滑車などを利用して運び、



3 石をたてながら土をつめこんでまっすぐにする



4 天井石を置いてから内部の土を取り除き、封土でおおい墳を掘り上部を小石でふいて完成する



「四季の石舞台古墳」

春



夏



秋



冬



墳丘の周りは空堀が巡っている/斜面は自然石の貼石となっている/正面前方に剥き出しの石室が見える



西側から見た石室の上部



アップで見る



北側から見たところ



東側から見たところ



アップで見る



石室入口を南東側から見る



石室入口を南西側から見る



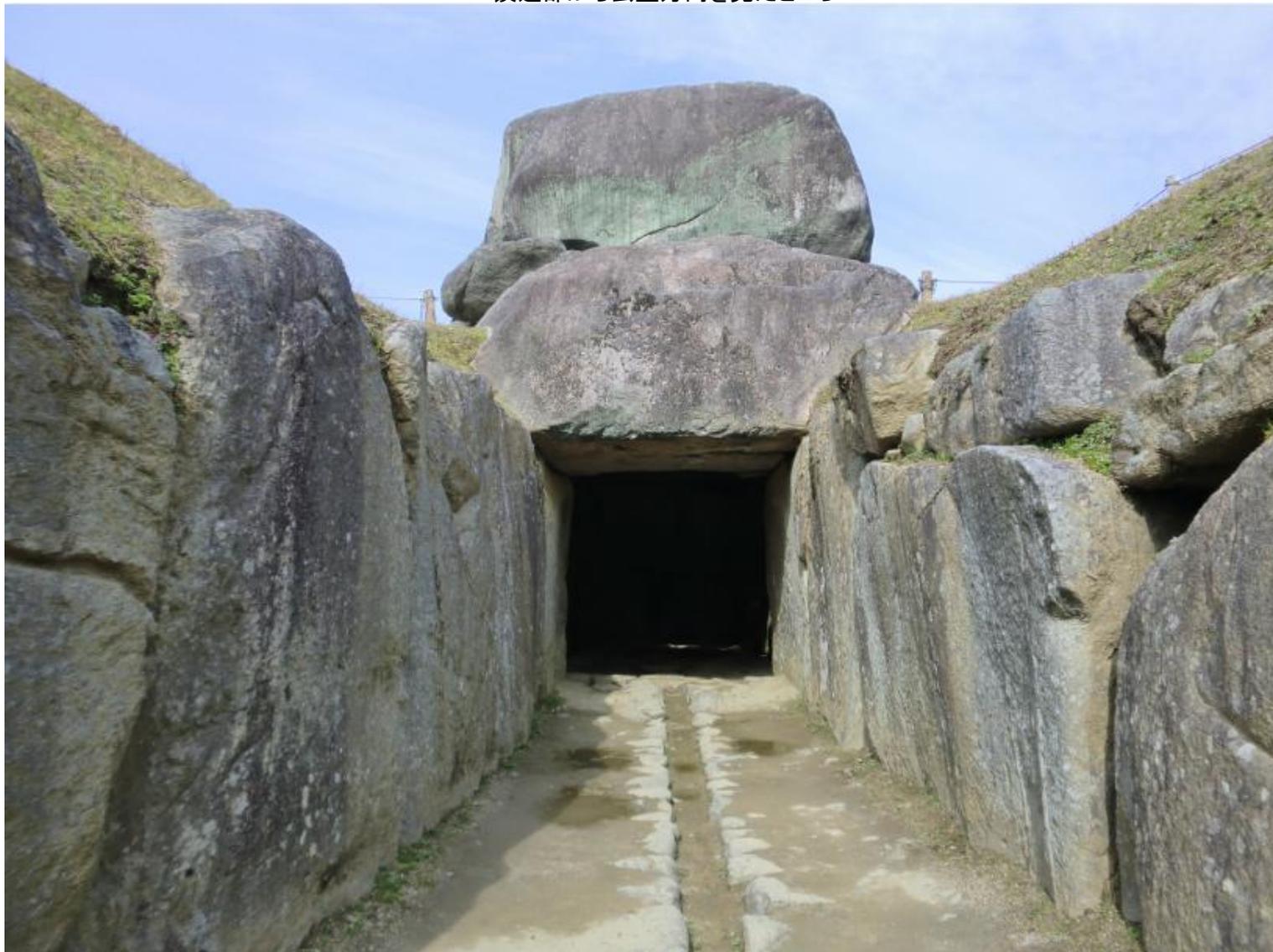
南側から石室入口を見たところ



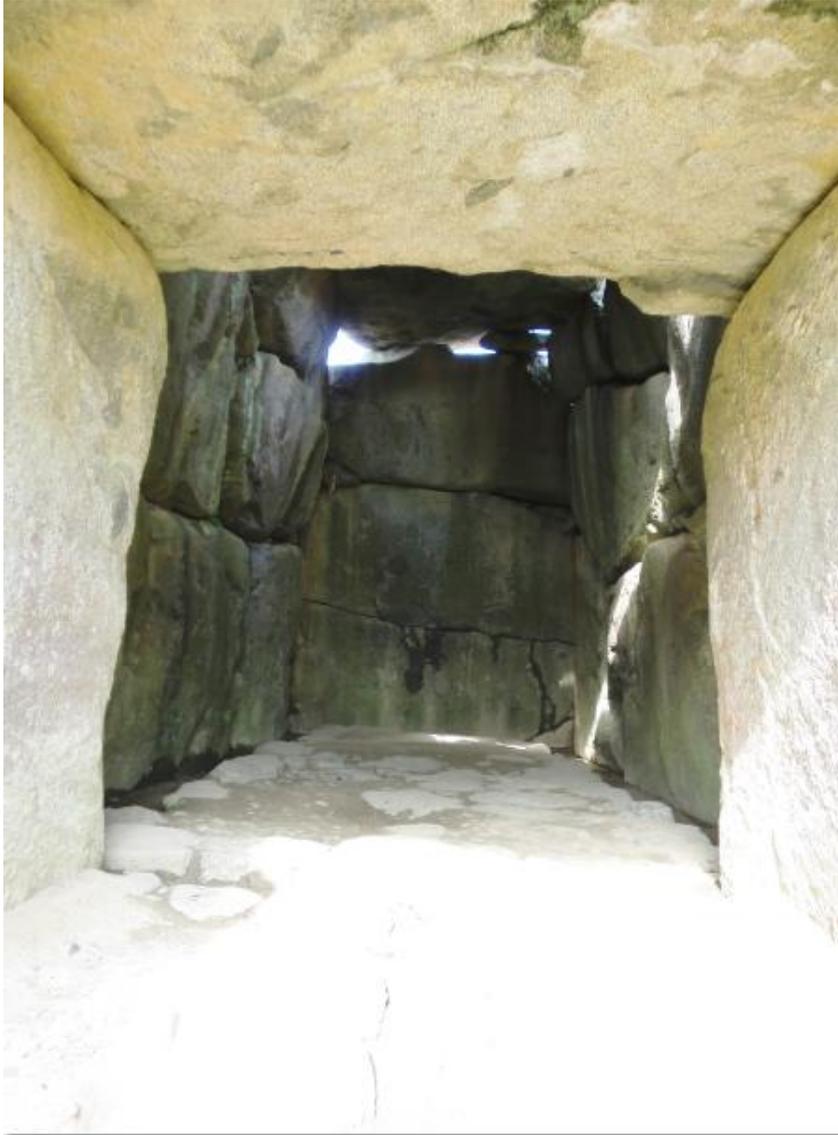
石室入口に立つ人と比べるとその巨大さが良く分かる



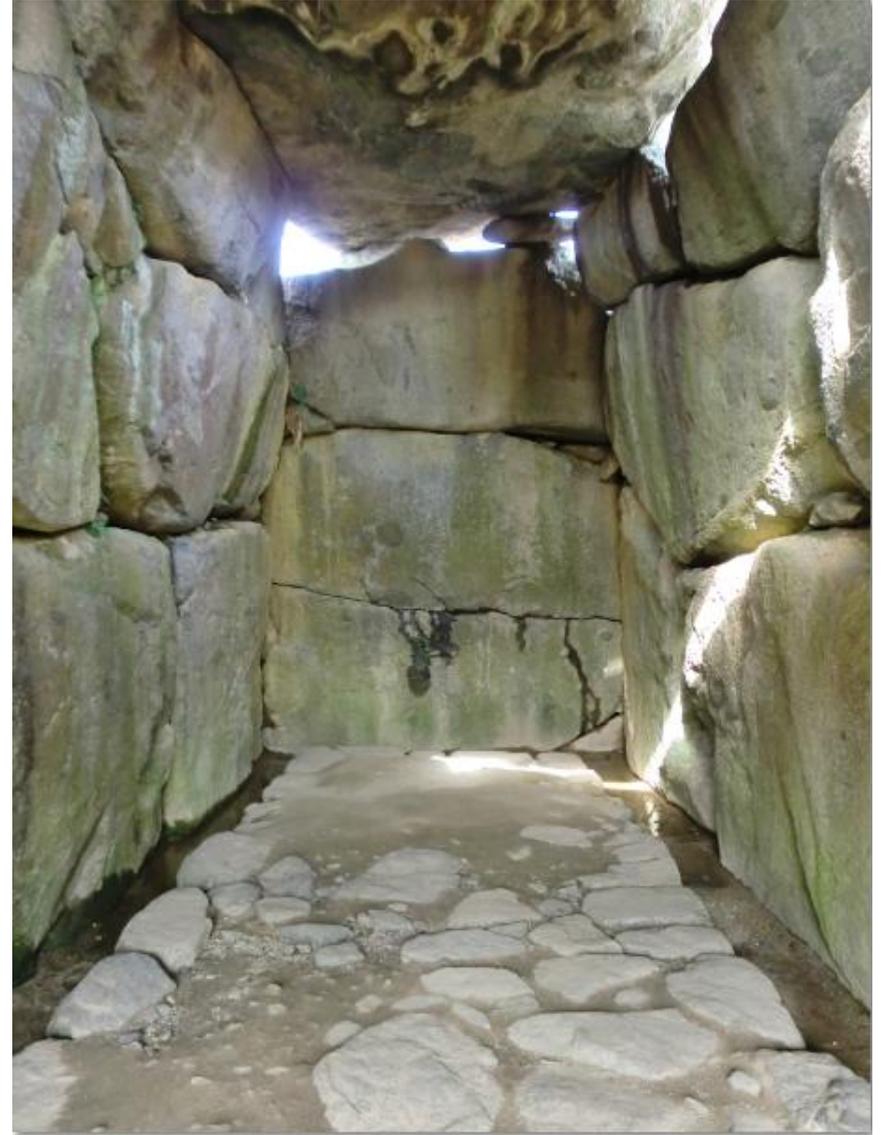
羨道部から玄室方向を見たところ



玄室内部を覗く



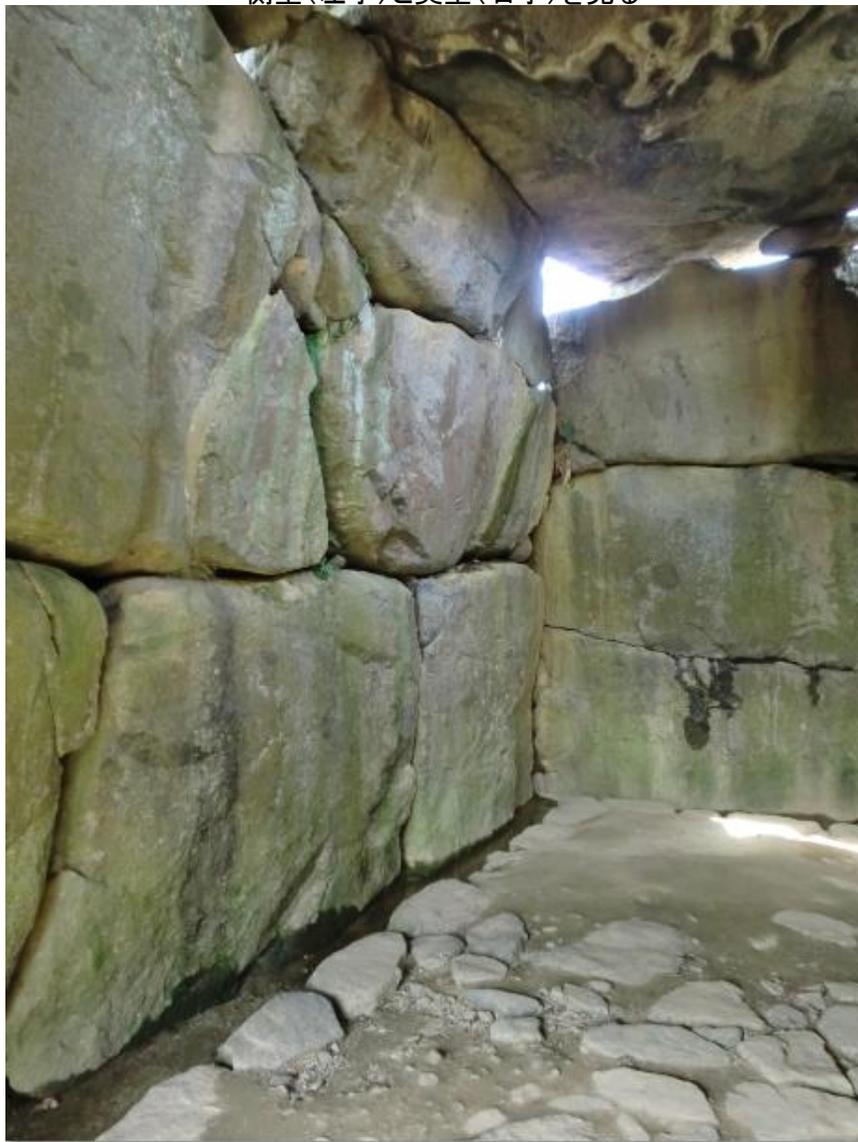
正面が玄室奥壁



床の両サイドには排水側溝が布設されている



側壁(左手)と奥壁(右手)を見る



巨大な天井石を見る



側壁のアップ



玄室内部から羨道方向を見たところ/両袖式石室であるのが分かる



羨道では床の中央に排水側溝が布設されており、玄室内の雨水等はこれによって排水される仕組みになっている



羨道部から南方向を見る



南側に立つ説明板



特別史跡 石舞台古墳

明日香村島庄

昭和二十七年三月二十七日指定

この古墳は、封土(もりつち)の上部がなくなり、玄室部の天井石と側壁の上方が露出していて、天井石が平たいので、古くから石舞台古墳の名で親しまれている。

古墳は、昭和八年、十年に京都大学と奈良県が共同で発掘調査を行った。

玄室の長さは、約七・六メートル、幅約三・五メートル、羨道の長さは約一・五メートル、幅約二・二メートルで、玄室底部から羨道中央部を南に通る排水溝がある。

現在封土基部は方形で、外斜面に自然石の貼石がある。一辺の長さは約五・五メートル、その外方の隍(からぼり)の幅は隍底で約六ないし七・六メートルで、北方の幅は約六・五メートルである。その外側に上幅約五メートルの外堤があり、内外斜面にも下方部と同じく貼石をする。封土は、方形・上円下方形とも考えられているが、現在なおはっきりしないが、巨大な石材を架構した雄大さは、日本古墳の中でも群を抜いた後期古墳である。

昭和五三年三月

奈良県教育委員会

これは説明板の近くに置かれている石棺のレプリカ



石舞台古墳の復元石棺

この石舞台古墳は、昭和8年の発掘調査で30数個の大きな石で築造された大規模な古墳で、6世紀末期から7世紀初頭のものであることがわかりました。

古墳形状は、上円下方墳と推定されます。

被葬者は、古代この地で最大の勢力を誇っていた大豪族の蘇我馬子の桃原墓(日本書紀卷第二十二 推古天皇三十四年 626年「大臣……桃原墓に葬る」)であるとの説が最も有力視されています。

古墳の規模は、下方形墳(外陸)一辺が8.5m玄室の長さ7.7m幅3.4m高さ4.8mで玄室南側の天井石は、約7.7tと推定されます。この発掘調査では、石棺は発見できませんでしたが、石室からは平らに加工した凝灰岩の破片が見つかりました。

このような発掘調査の成果と、飛鳥時代の古墳に施されている石棺の資料を基にして石舞台古墳の石棺を復元致しました。

財団法人 明日香村観光開発公社

石棺内部



空堀を取り巻く「外堤」で、南西側から北東方向へ見たところ



東方向を見たところ



北方向を見たところ



西側から東方向に見たところ/人の身長と比べると石室の巨大さが見てとれる



参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E8%88%9E%E5%8F%B0%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<http://blog.osakanight.com/article/eid340.html>

<http://www.asukanet.gr.jp/ASUKA2/ASUKAKOFUN/isibutaiK.html>

<http://www.asukanet.gr.jp/n-ken/isibutai.html>

<http://www.asuka-tobira.com/asukamura/ishibutai.files/page0001.htm>

<http://www.bell.jp/pancho/asuka-sansaku/isibutai.htm>

<http://www.tabisansaku.com/tabi2004/asuka3.htm>

<http://small-life.com/archives/08/02/2013.php>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yoshi-cp/yamato.htm#ishibutai>

